

第4章 小串構内医学部附属病院病棟新営に伴う試掘調査

1 調査区周辺の地形

小串構内（医学部キャンパス）は山口県南西部、宇部市大字小串1144番地に在り、霜降岳東麓に源を發し宇部港に注ぐ真締川の中流域右岸に位置する。流域に遺跡は少なく、周辺の低位丘陵上・段丘上に弥生時代の北迫遺跡、南側遺跡等を若干見るだけである。宇部市域の地理的環境ならびに歴史的環境については、当調査研究年報のⅢ・Ⅳで詳細に述べてあるのでここでは割愛したい。

2 調査に至る経緯と調査方法

(1) 調査に至る経緯と調査目的

調査対象地区は、医学部附属病院の病棟新営予定地、約2200㎡である。小串構内では昭和58年以降の調査によって、現在まで部分的にはあるが、近・現代所産と考えられる遺構、また旧石器時代・中世・近世などの遺物が発見されている。埋蔵文化財資料館では、昭和62年度の医学部事業計画案のなかに病棟新営が盛り込まれた時点で、新営工事に際しては何らかの調査が必要であろうとの判断をしていた。

昭和62年12月17日、医学部より病棟新営の工事計画を受けた資料館は、既往調査の結果を参考に遺構・遺物の遺存状況把握のための試掘調査を行うこととした。ところが、既設埋設物が多くあり、土層堆積状況も全く不明であったため、トレンチ設定に困難を極めた。この試掘調査は今後の取り扱い上、非常に重要な位置を占めること、また、より効率的な試掘調査の実施から、まず、昭和63年1月19日に病棟新営予定地

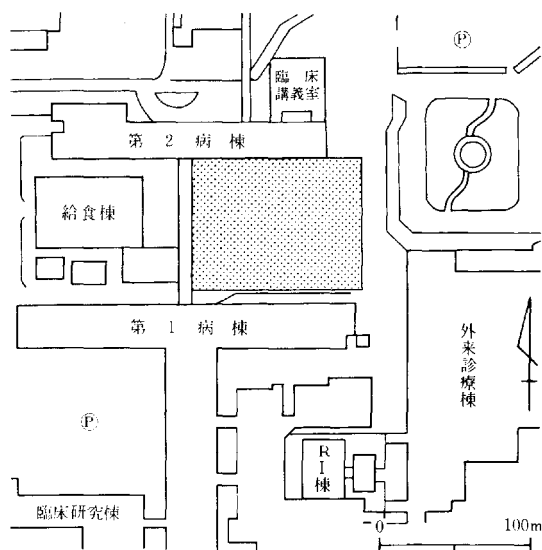


Fig. 44 病棟新営地位置図

の北西部と南東部の二箇所を試し掘りした (Fig. 45)。

その結果、遺構・遺物の発見はできなかったが、旧石器時代から近・現代の遺物を含む灰オリーブ色粘土層の堆積を確認し、丘陵を形成すると思われる山土を初めて検出した。併せて埋設物の残存状況、埋め土の厚さの確認をおこなった。灰オリーブ色粘土の堆積は新営予定地全域で予想されたが、遺物の出土量は必ずしも多くなく、遺構存在の可能性も低いと思われ、予定地全域の調査は不必要であろうとの予測ができた。しかし、試し掘りの面積が少ないこともあり、試掘調査の結果を待ち、最終の判断を下すこととした。

試掘調査は、遺構・遺物の有無、先に検出した旧丘陵の連なりの把握を目的とし、昭和63年2月15日から3月4日にかけて実施した。

この結果、資料館では今後の工事に際して、一部の地域については綿密な立会調査が必要であること、他の地域については調査の必要はないとの結論を出し、埋蔵文化財資料館運営委員会において了承された。綿密な立会調査が必要とされた約300㎡部分については、昭和63年6月に約2週間の日程で調査を実施しており、年報Ⅷにて報告する予定である。

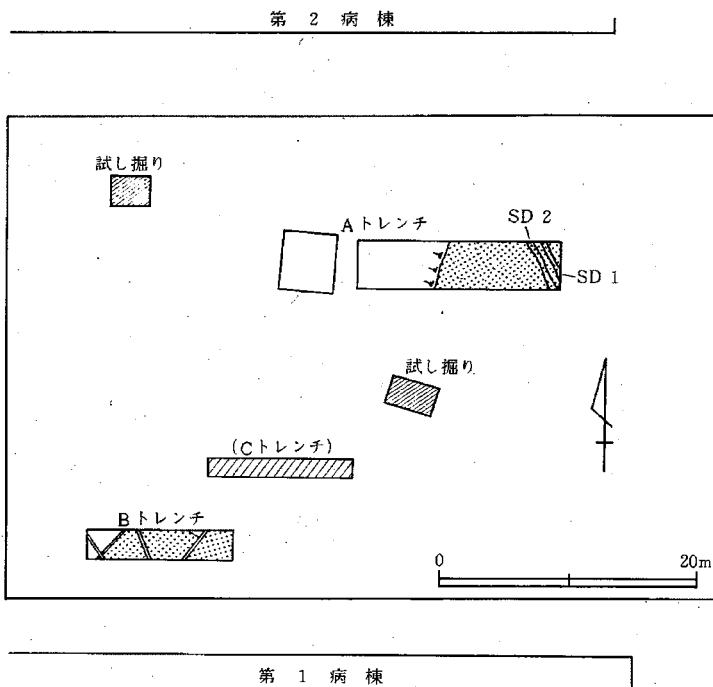


Fig. 45 トレンチの位置と遺構分布図

(2) 調査方法

旧丘陵の把握に主眼を置き、東西方向3本のトレンチを設定した (Fig.45) が、うち一つは地表下35cmで非常に硬いアスファルトに当たり、掘削を断念している。よって、A・B二箇所のトレンチ調査となった。表土より下位は手掘りによる分層発掘をおこなった。Aトレンチでは遺構・遺物を希薄であったが、初めて黄橙色粘質土の遺物包含層を確認し、Bトレンチでも、初めて確認した砂層の遺物包含層から多くの石器類が出土した。

3 層 位

(1) Aトレンチの土層

Aトレンチは、病棟新営予定地の北東部に長さ19m×幅4mで設定した。既設配管のため、A西とA東の2区に分かれた。A西・A東の西側半分は、現地表面下1.9m以上の攪乱を受けており、実際の調査はA東の東部のみとなった。

調査前の地表面はほぼ水平で、海拔標高2.6~2.7mを計る。地表面から1.2~1.7mまでの深さに近・現代の埋め土がある。1.5m程で近・現代の旧耕作土が見られ、床上をはさんで1.4~1.9mの間に灰色土を見る。ここでは若干の土器片が見られ、遺物包含層であることを確認した。またこの層を掘り込んだ2条の溝を検出した。その直下1.3~2.1mのあいだに、既往調査で旧石器時代~近・現代までの遺物を含むことが確認されている灰オリブ色土が堆積している。以下、二枚の砂利層をはさみ、1.6~2.2mの深さで丘陵を形成すると思われる山土を検出した。Aトレンチ内を見る限り東へ下降することが分かった。

土層の堆積は以下の通りである。(Fig. 46参照)。

第1層 埋め土

第2層 黒褐色土 よくしまり、粘性をもつ。0.1cm以下の石英を若含む。旧耕作土。

第3層 暗灰黄色土 よくしまる。粘性はない。0.2cm以下の石英を含む。床土。

第4層 灰色土 かたくしまり、若干粘性をもつ。0.3cm以下の石英を含む。包含層。

第5層 暗オリブ灰色土 かたくしまり、粘性をもつ。0.2cm程度の石英を若干含む。包含層。

第6層 暗緑灰色土 砂利層である。0.1cm~0.3cm程度の石英を多く含む。

第7層 灰オリブ色土 礫層である。2.0~0.3cmの円礫チャートを含む。

第8層 黄褐色土 よくしまり、若干の粘性をもつ。不純物は含まない。山土。

(2) Bトレンチの土層

Bトレンチは、病棟新営予定地の南西部に、長さ11m×幅2.5mで設定した。ところが既設の配管・基礎などのため、未完掘の部分が出た (Fig. 45参照)。土層の堆積は、調査前の地表面がアスファルトで、その海拔標高は2.4mである。まず、1.0~1.1mの深さまでが、近・現代の埋め土である。以下、約20cmの間に近・現代のものと考えられる旧耕作土を二枚、それと床上を確認した。そして1.3~1.5mの間に、灰オリブ色土・オリブ

灰色土、黄褐色土、暗オリーブ色土・灰オリーブ色土という三枚の層が堆積している。このうち、上部二層はAトレンチ内でも見られるが、第7層目に当たる暗オリーブ色土・灰オリーブ色土の堆積は、Bトレンチにおいてのみ確認したものである。なお、これらは全て遺物を含む層である。そして、1.4~1.8mの深さで灰色を呈する砂層の堆積を見た。これには、多くの石器類が包含されており、その直下、1.8~1.9m以上の深さでも、緑灰色を呈する砂層が堆積し、自然木等の出土を見ている (Fig. 46参照)。土層の堆積は、

第1層 埋め土

第2層 オリーブ黒色土 きめ細かで粘性を持つ。0.1cm以下の石英を若干含む。旧耕作土(上層)。

第3層 オリーブ黒色土 上層との違いはこちらがしまりが強いことである。旧耕作土(下層)。

第4層 オリーブ黒色土・オリーブ色土 若干粘性あるが全体にパサパサ。0.1cm~0.2cm程度の石英、0.1cm程度の黒ウンモを含む。床土。

第5層 オリーブ色土・オリーブ灰色土 若干粘性あるが全体にパサパサ。0.1cm程度の石英・黒ウンモを含む。包含層。

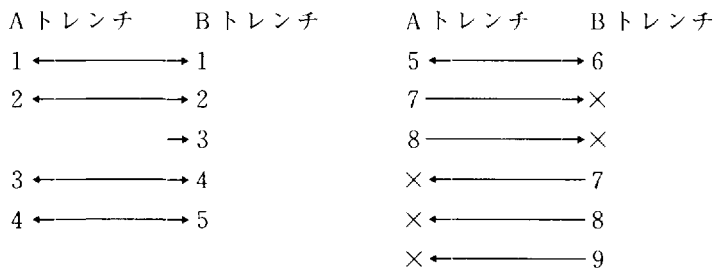
第6層 黄褐色土 若干粘性あるが全体にパサパサ。0.1cm程度の石英を多量に含む。包含層。

第7層 灰オリーブ色土 若干粘性あるが全体にパサパサ。0.1cm~0.2cm程度の石英を多量に含む。また、粘性をもち、0.1cm~0.3cm程度の石英、特に0.3cm程度の石英を多量に含む部分がある。包含層。

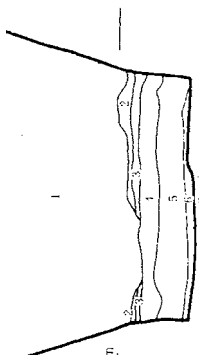
第8層 灰色土 砂層であるが、部分的に粘性をもつ。0.1cm~0.3cm程度の石英を多量に含む。包含層。

第9層 緑灰色土 砂層である。0.1cm~0.3cm程度の石英を多量に含む。包含層。

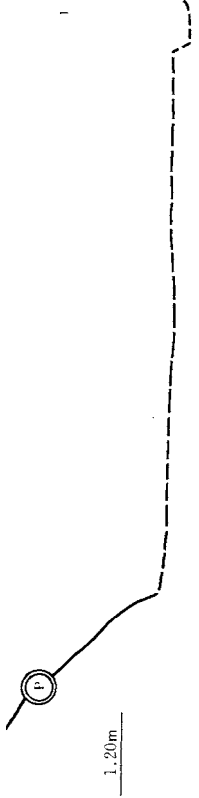
であり、両トレンチの土層は以下のように対比される。



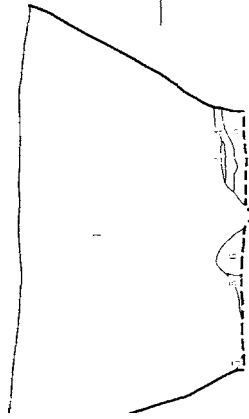
A. Bトレンチの土層対比



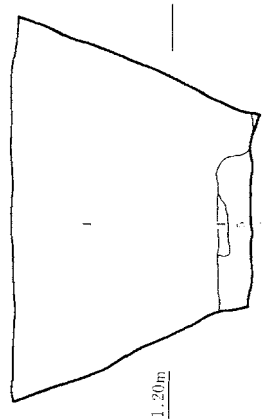
Aトレンチ 東壁I



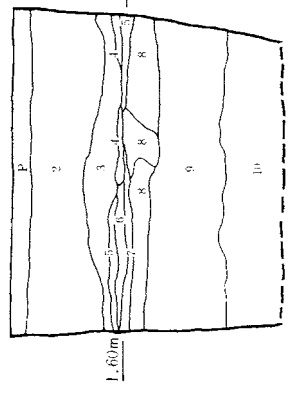
Aトレンチ 北壁



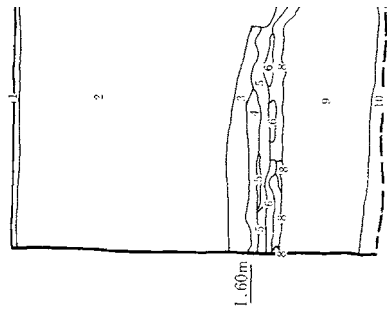
Aトレンチ 西壁



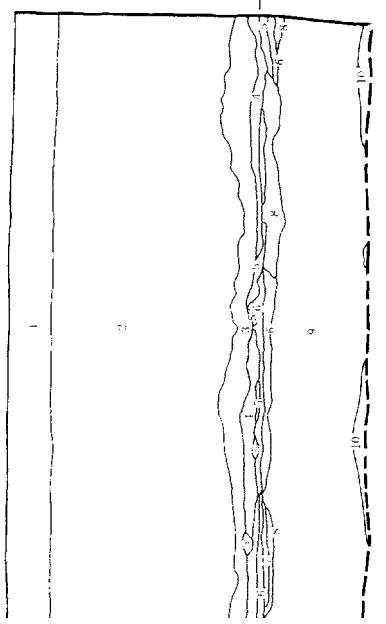
A(西)トレンチ 南壁



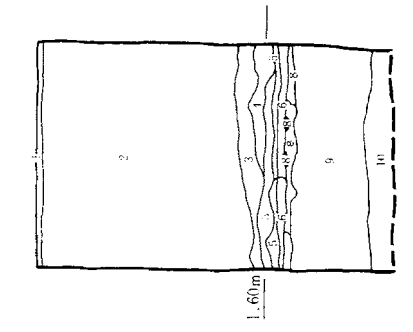
Bトレンチ 西壁



Bトレンチ 東壁



B(中央)トレンチ 北壁



- Bトレンチ
1. アスファルト
 2. 埋め土造成土
 3. オリゾグ黒色土
 4. オリゾグ黒色土
 5. オリゾグ色土
 6. オリゾグ褐色土
 7. 黄褐色土
 8. 灰オリゾグ色土
 9. 暗オリゾグ色土
 10. 緑灰色土
- B(中央)トレンチ北壁と
アスファルトと砂利の

- Aトレンチ
1. 埋め土造成土
 2. 黒褐色土(埋積層)
 3. 暗灰黄色土(床土)
 4. 灰黄色土(埋積層)
 5. 暗オリゾグ灰黄色土(埋積層)
 6. 暗緑灰色土
 7. 灰オリゾグ色土
 8. 黄褐色土(埋積)
- P: 既設配管

4 遺構・遺物

(1) Aトレンチの遺構・遺物

これまで小串構内では、近・現代よりも古い遺構の発見はなく、検出された2条の溝も埋土の状況から、近・現代の所産と考えられる。両者は15~40cmの間隔でほぼ並列しており、北西-南東方向に流路をもつ。SD1は幅15~35cmで、長さ2.2m以上。検出面からの深さは、2.7cm~4cmを計る。溝底は平で、埋土から石英製の縦長剥片が1点出土した。SD2は幅20~45cm、長さ2.8m以上。検出面からの深さは、約4cmである。溝底は平で、出土遺物はない。両者とも上部の削平が大きいと考えられる。出土遺物にはこの剥片のほかに削器・二次加工剥片、播鉢と考えられる土師質土器・須恵質土器の二細片がある。(Tab. 5参照)。なお、削器については、小結(2)考察の項も参照されたい。

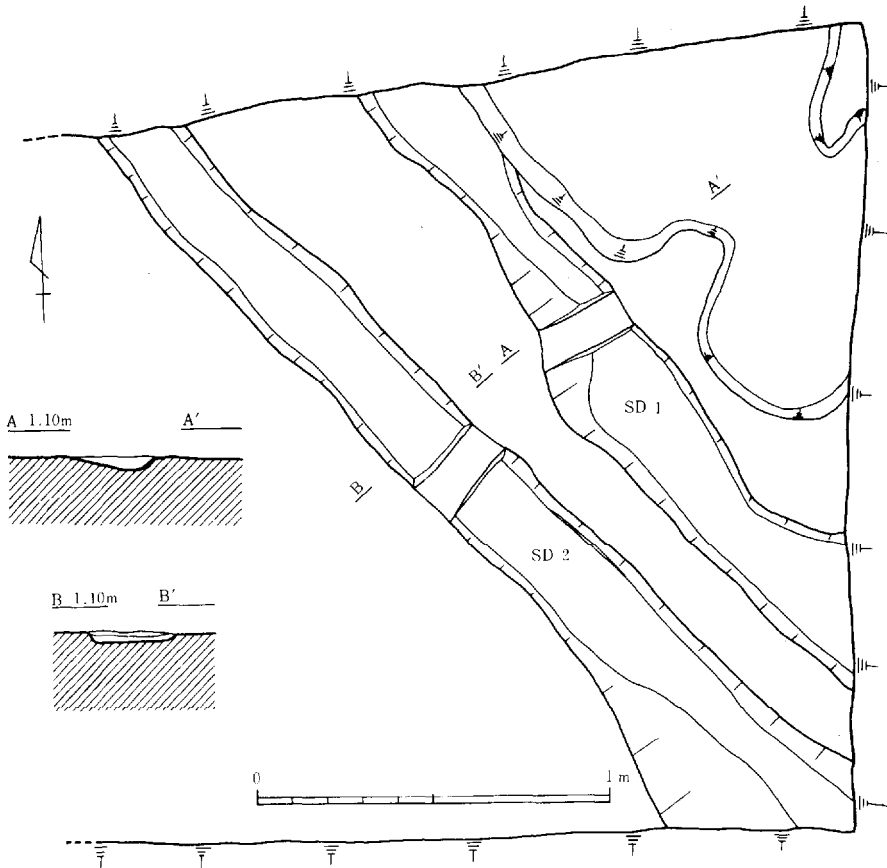


Fig. 47 Aトレンチ 第1・2号溝実測図

(2) Bトレンチの遺構・遺物

遺構の発見はない。出土遺物は、旧耕作土（上・下層）・床上から、土師器・土師質土器・須恵器・須恵質土器・陶器・磁器・瓦の各破片、石器では細石刃核等、また灰オリーブ色土から、土師器・土師質土器・須恵質土器・陶器・磁器の各破片、そして石器類の包含層である灰色の砂層から、木片・ナイフ形石器・削器・加工痕のある剝片・剝片・礫等が出土した。各遺物の属性については Tab. 5 を参照して頂きたい。

5 小 結

(1) 埋蔵文化財の遺存状況と今後の方針

調査面積は病棟新営予定地、2200㎡の内の約100㎡で、その1/20である。遺構は2条の溝のみで上部は削平を受けていた。人為的痕跡は攪乱による消失が高いと思われた。遺物もこの攪乱によって同一層に数時期のものが混在している状況であった。調査地点による土層の相違が大きく、今回初めて確認した土層がある。しかし、調査面積の少なさもあってこれらの堆積面の把握、またその成因・時期等の詳細は今後に待つところとなった。ただ、旧地形は病棟新営予定地内、大きく北東から南西への下降が確認され、南西側には石器類を含む灰色粘質土が堆積していると思われる。すなわち、給食棟、第一病棟方向周囲の掘削時には、事前に十分な調査が必要とされる。また、他の地域の遺構の有無は当調査結果からは言及できず、遺物を含め良好に保存されていることも考えられる。土層堆積範囲・その状況も未だ不明瞭であり、面的に網羅する上でも、まず、データの収集が望まれる。

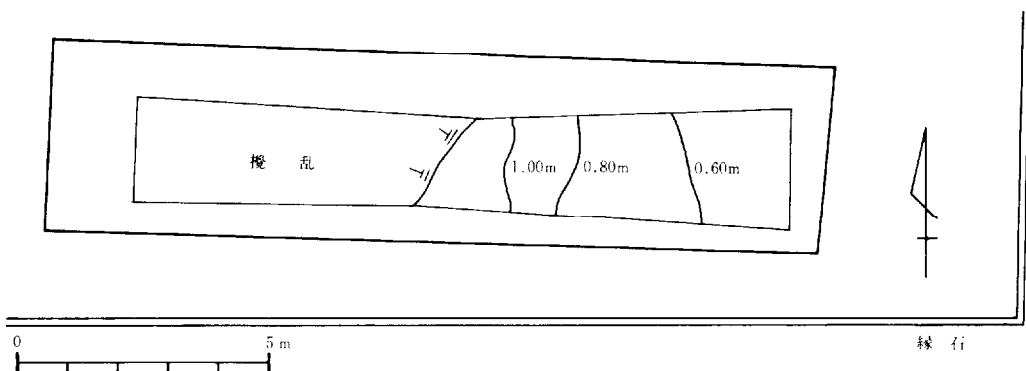


Fig. 48 Aトレンチ 旧丘陵の地形

(2) 考察

ここで、Bトレンチ第9層灰色砂層出土の遺物について見ておきたい。

20点近くの石器類・それに若干の自然木等が見つかった。所属時期については本層が二次堆積と考えられる為、層位からの時期決定はできない。しかし、時期を代表できる石器として、ナイフ形石器以外見られないこと、土器類がないこと、また、石器類の石材・形態などから、大部分を旧石器時代の所産と考えておきたい。以下、遺物説明を行う。

42はナイフ形石器である。縦長剥片の一側縁～基部にかけてブランディングを施す。これは全て腹面側からで、素材の打面部は切られているものの、形状はあまり変更させない。ブランディングの細かさ、小形の素材、使用石材という点において、県内でも異質なものと見えよう。

9はスクレイパー（削器）である。素材の形状は不明である。図中、一側辺に大きめの剥離を施す。対辺には、使用によるものかと思われる微細な剥落痕が整然と認められる。素材面と考えられる剥離面からは、規則的な打撃方向を決定し得ない。なお、先端部については積極的に意識した加工は見受けられない。

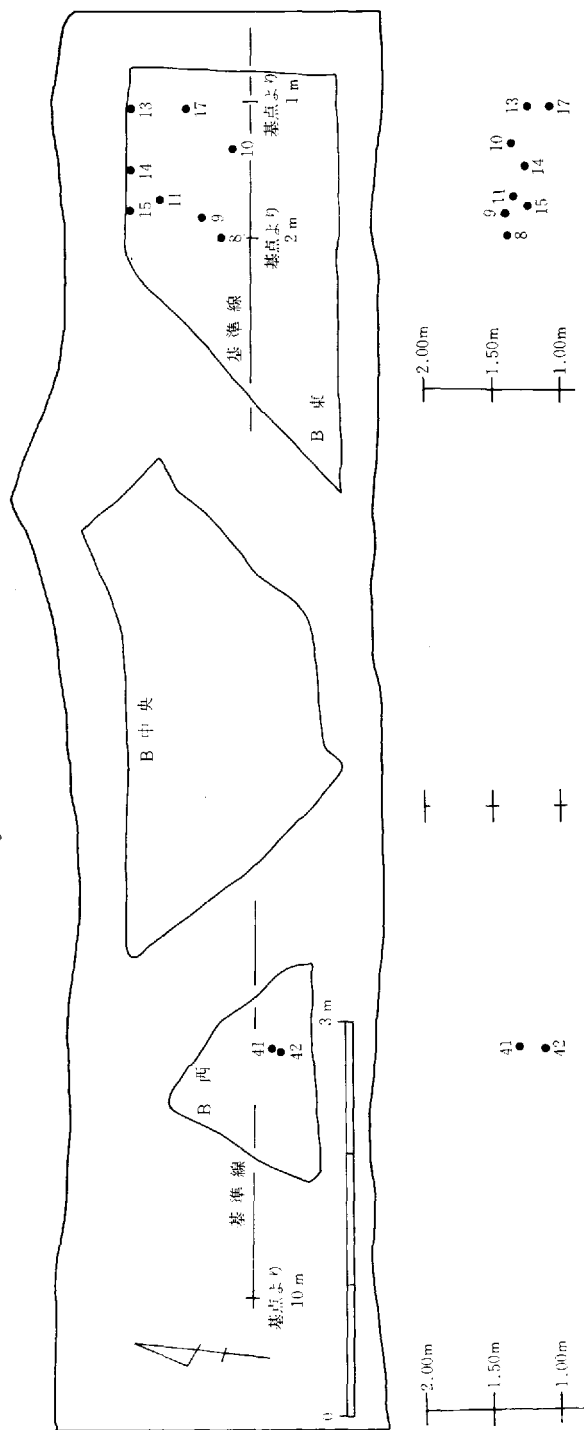


Fig. 49 B トレンチ出土石器の出土状況 (上・平面、下・垂直)

4は二次加工のある剥片である。打面部はない。リタッチによって切られているものと思われる。素材形状はおそらく縦長であろう。厚手のもので原礫面を大きく残す。背面相当面は多方向の剝離面で構成される。

22はナイフ形石器である。縦長剥片素材で、その一側縁と基部に整然と綿密なブランディングが腹面側から施される。打面・バルブは取り除かれている。しかし、素材の形状はあまり変更させない。背面には対向した剝離が存在し、両設打面石核の存在が考え得る。刃部には刃こぼれ状の微細な剝落痕が若干見られる。最先端部欠損。

15は削器である。素材は角柱状を呈するもので、その一側辺にリタッチを整然と施す。原礫面も残している。なお、素材の打面部もよく分からず、剝離の方向など実測図にはあえて記したところが多い。

10は使用痕のある剥片である。縦長剥片の一側辺に使用時によるものか、微細な剝落痕が連続的ではないが観察できる。原礫面が残存し、打面部も原礫面である。

18は複剝離打面をもつ縦長の剥片である。打点を残す。片側辺には、原礫面を残す。17は平坦打面をもつ不定形の剥片で片側辺を欠損する。

26は礫である。表面は黒色・橙色を呈し、表面には凸凹を見る。焼け礫か？

以下、第9層以外出土の遺物・Aトレンチ内の遺物について述べたい。

1はSD1出土の小形の剥片である。打面・打点は残らない。片側辺は欠損であるが、下端に原礫面を残す。時期帰属は不明である。

19は両面磨きが入るものと考えられ、側面は磨滅している。帰属時期・器種不明。

8は原形の $\frac{1}{8}$ 程度と思われる。残存部は原礫面で覆われる。表面は多少のローリングを受けているが、当時のものかは判断しかねる。敲石片か？

4は細石刃核である。正面形は円錐形。4枚の細石刃剝離痕を見る。ただし、左側2枚についてはあまり明瞭でない。打面は調整打面で、一枚の大剝離面を打面としている。石核の調整は入念であるが、原礫面をも残す。剝離角は直角に近い。野岳・休場型。

7は欠損が多く、詳細不明。若干磨いているようでもあるが、単なるローリングか？

30は削器である。縦長剥片の一側辺に粗い加工を施す。対辺には原礫面を残す。打面も原礫面からなる。腹面側辺の剝離は、リタッチの際か、あるいは使用による痕であろう。

以上、使用石材には、チャート・メノウがその半数を占めるものの、外に多くの石材がある。このことは、宇部台地遺跡群の在り方と類似するかのようであり、²⁾一遺跡での主要

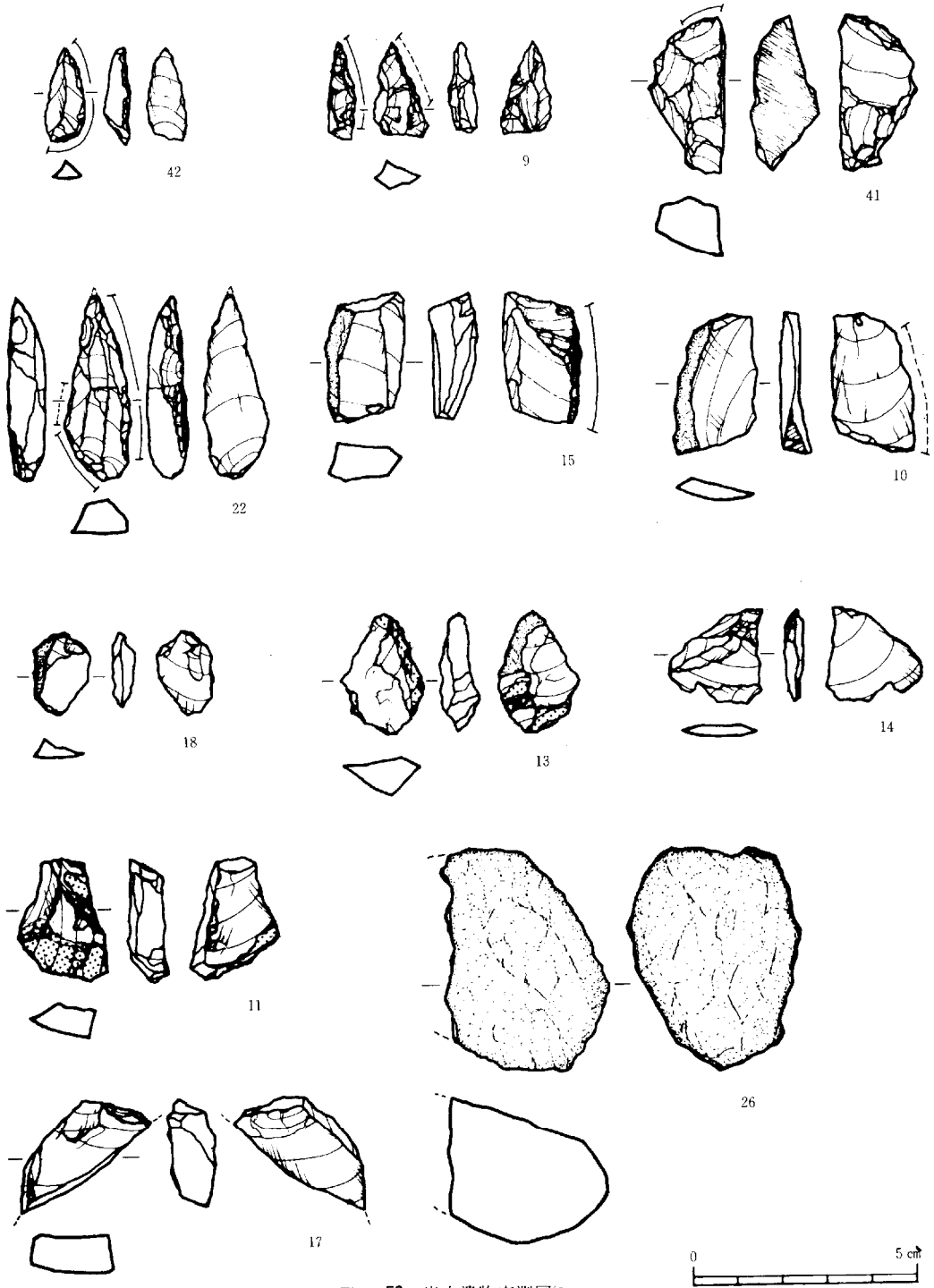


Fig. 50 出土遺物実測図(1)

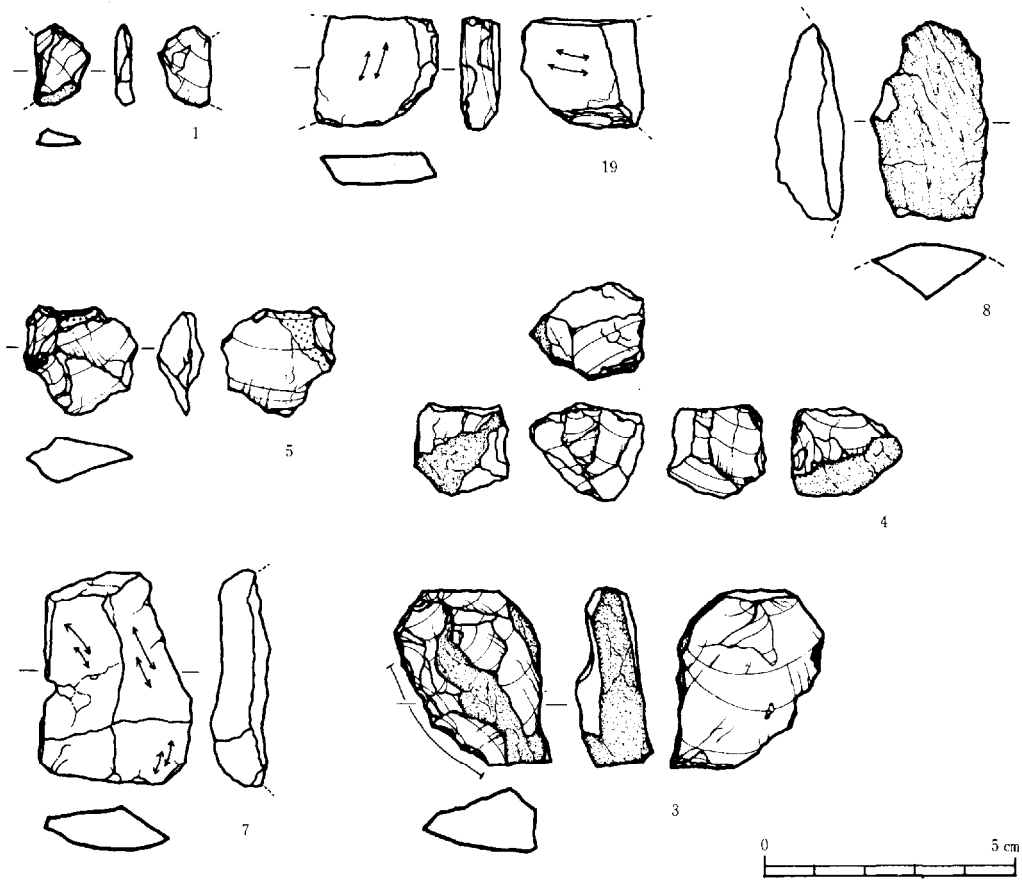


Fig. 51 出土遺物実測図(2)

石材という点では、チャート・メノウ類が今回それに相当しよう。³⁾

宇部台地の遺跡群では、ナイフ形石器文化期と細石器文化期とを石材の面から概観すると、細石器文化期の、黒曜石の多さは目につくところである。⁴⁾これは一概に、黒曜石以外の石材の減少とは結びつかないが、今回出土した特に灰色砂層の石器群は、石材の面からは宇部台地におけるナイフ形石器文化期の一般的な様相を示しているかのようにもとれる。

剥片剥離・調整法については、まず2点のナイフ形石器は縦長剥片素材である。両者とも二側縁加工で、素材の変更度は小さい。使用石材を除くと大きさで異なるものの、素材・調整法は類似する。大形の方は強いてあげるならば、南方遺跡に類似品を見るが、宇部台地の遺跡群にあっても数は少ないものである。⁵⁾また、剥片類の背面剥離面からは、主要剥離面の打撃方向に対し、ほぼ同じ面と、約90°ずれる面とを持つものが多く、4~5枚で構成される。ナイフ形石器については対向する剥離面を含んでおり、両設打面石核の存

在が推測できる。ここでは器種による剥離法の違いが指摘できるが、当石器群の詳細な剥片剥離法を追及するには資料が少なすぎよう。

打面については調整打面は少ない。原礫面打面は多い。打面調整の有無イコール定形的な剥片剥離技術の有無という一元的な考え方は成立しないが、打面の作出、調整の過程が単純であることは、より発達した形での剥片剥離法の存在を考えにくくしている。ただ、打面調整については、打面調整を含む調整技術を持ち合わせていない場合、また石材においても左右される場合もあろう。宇部台地の遺跡群で少なくとも打面調整の技術は見られるので、今回の資料は石材に影響されたものと考えておきたい。

チャート・メノウ製の石器類を見てみると、縦長剥片素材の削器一点を除き、外はやや横長の不定形剥片である。原礫面を側面に残すものが多く、全体的に小振りであり、拳大円礫状の原石が利用されたとの推測が可能である。当調査区を含め、宇部台地の遺跡群で案外普遍的な玻璃質安山岩は大分県姫島で産出する。一般に知られる黒曜石とは生成時に関するものか、概括的ながらその在り方が対照的で黒曜石は露頭として、玻璃質安山岩は⁶⁾拳大の円礫として場所を違えて存在している。この玻璃質安山岩の在り方は、チャート・メノウ類の多用性を考えるに示唆するところがなかろうか。旧石器時代、宇部台地遺跡群のほか、姫島周辺地域での姫島産黒曜石の利用度が少ないことは原石の在り方が選択行為に十分影響していたと考えたい。すなわち、当遺跡を含む宇部台地遺跡群におけるチャート・メノウ類の多用性は、それが地元で豊富に採れることに加えて、石器原材の形・大きさに選択行為が働いているものとして捉えておきたい。

〔注〕

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅳ～Ⅵ』（1985～1987年）所収。
- 2) 山口県旧石器文化研究会「宇部台地における旧石器時代遺跡①～⑨」（『古代文化』第35巻～41巻、1983～1989年）。
- 3) 富樫孝志「雨乞台遺跡の使用石材について」（『山口県雨乞台遺跡の発掘調査』、山口大学人文学部考古学研究室研究報告 第5集、1988年）。外に2)の文献。
- 4) 2)、3)の文献、実見による。
- 5) 山口県旧石器文化研究会「宇部台地における旧石器時代遺跡⑤—南方遺跡 その①—」（『古代文化』第38巻9号、1986年）。
- 6) 清水宗昭「姫島産の黒曜石とガラス質安山岩の分布について」（『賀川光夫先生還暦記念論集』1982年）。実見による。

Tab. 5 出土遺物観察表

No.	器種	石質	出土位置 (Grid)	出土層位	北→南 (cm)	東→西 (cm)	出土高 (m)	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	打面の形状	原礫面の有無	接合関係	備考
1	剥片	チャート	A東	SD1埋土内				1.6	1.0	0.4	0.5		○		
2	次里工のある剥片	チャート	A東	4				1.8	1.4	0.5	1.7	ほぼ水平	?		風化のため詳細不明
3	柄	チャート	A東	5				3.5	3.1	1.5	14.1	原礫面	○		
4	細石月核	チャート	B東	4				石核高 1.9	石核幅 2.3	石核厚 1.9	8.0	ほぼ水平	○		野危・体場型
5	柄	チャート	B東	4				2.1	2.2	0.9	2.8				
6	次里工のある剥片	蛇紋岩	B東	3				2.2	2.7	0.5	2.8				
7	砥石?	石英斑岩	B東	4				4.3	3.0	1.0	12.3		○		
8	砥石?	石英安山岩質 溶結凝灰岩	B東	8	205.0	1.424		3.9	2.3	1.3	10.4		○		
9	柄	黒曜石	B東	8	185.0	1.463		3.1	1.2	0.6	1.0				
10	剥片	チャート	B東	8	134.0	1.367		3.1	2.8	0.5	3.1	単剥離	○		
11	剥片	チャート	B東	8	172.0	1.368		2.7	1.9	0.7	3.6	単剥離	○		
12	剥片	蛇紋岩?	B東	8	138.0	1.315		1.6	1.8	0.8	2.9				
13	剥片	スノ	B東	8	106.0	1.266		2.7	1.8	0.7	2.8		○		
14	剥片	チャート	B東	8	150.0	1.278		2.1	2.0	0.5	0.9				
15	柄	土	B東	8	180.0	1.243		2.8	1.8	1.1	5.9		○		
16	剥片	チャート	B東	8	0	236.0	1.304	2.5	3.0	1.0	6.3	複剥離	○		
17	柄	姫島産黒曜石	B東	8	106.0	1.084		2.5	2.9	0.9	5.3	複剥離			
18	柄	チャート	B東	8				1.9	1.3	0.4	0.9	単剥離			
19	不明	細粒砂岩	B東	8				2.2	2.4	0.6	4.5				
20	剥片	蛇紋岩?	B東	8				1.6	1.2	0.5	1.0				
21	剥片	チャート	B中央	8				1.1	1.2	0.5	0.6				器種?

遺構・遺物

No	器種	石質	出土位置 (Grid)	出土層位	北→南 (cm)	東→西 (cm)	出土高 (m)	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	打面の形状		原礫面 の有無	接合関係	備考
												形	傾き			
22	ナイフ形石器	玻璃質安山岩	B中央	8				4.1	1.5	0.7	4.0					
23	剥片	蛇紋岩?	B中央	8	N66.0	410.0	1.064	1.9	1.3	0.4	1.0	単割離	腹面→底面			
24	剥片	蛇紋岩?	B中央	8	N74.0	544.0	1.121	3.2	2.6	0.7	1.6					
25	剥片	蛇紋岩?	B中央	8	S24.0	583.5	1.124	2.1	0.8	0.4	0.7					
26	礫	安山岩	B中央	8				4.9	3.7	3.2	72.0			○		
27	剥片	チャート	B中央	8				1.9	1.6	0.7	2.2					
28	剥片	蛇紋岩?	B中央	8				2.5	1.2	0.4	1.7					
29	剥片	蛇紋岩?	B中央	8				2.1	0.8	0.4	0.7					
30	剥片	蛇紋岩?	B中央	8				1.1	1.1	0.5	0.4	単割離	背面→底面			
31	剥片	蛇紋岩?	B中央	8				1.1	1.8	0.6	1.1					
32	剥片	蛇紋岩?	B中央	8				1.2	1.3	0.4	0.9	複割離	ほぼ水平			
33	剥片	蛇紋岩?	B中央	8				1.5	1.0	0.4	0.6					
34	剥片	蛇紋岩?	B中央	8				1.1	0.6	0.2	0.2					
35	剥片	蛇紋岩?	B中央	8				1.0	1.0	0.7	0.6					
36	剥片	蛇紋岩?	B西	8	S44.0	900.0	1.480	2.0	1.0	0.7	1.5					
37	剥片	蛇紋岩?	B西	8	S27.0	896.0	1.489	2.3	1.5	0.9	3.0	単割離	水平	○		
38	剥片	蛇紋岩?	B西	8	S13.0	893.0	1.508	2.9	1.1	0.6	2.1			○		
39	剥片	蛇紋岩?	B西	8	S3.0	896.0	1.514	1.7	2.2	0.9	4.3	複割離				
40	剥片	チャート	B西	8	S4.0	793.0	1.431	1.9	2.3	0.4	1.9			○		
41	剥片	水晶	B西	8	N7.0	810.0	1.303	3.4	1.7	1.6	7.6					
42	ナイフ形石器	蛇紋岩?	B西	8	S16.0	811.0	1.109	3.1	0.9	0.5	0.8					

No	器種	石質	出土位置 (Grid)	出土層位	北→南 (cm)	東→西 (cm)	出土高 (m)	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	打面の形状		原表面 の有無	接合関係	備考
												形態	傾き			
43	次加工のある銅片	蛇紋岩?	B西	8	S23.0	782.0	1.108	1.5	1.1	0.7	1.0					
44	銅片	蛇紋岩?	B西	8				1.3	2.2	1.1	3.0	規則離	水平			
45	次加工のある銅片	蛇紋岩?		表探				2.6	2.8	0.9	8.6			○		
46	サメの歯		B西	8				2.0	1.9	0.4						

No	器種	出土位置	胎石				砂礫	その他	色		調	残存程度	形態・成形・調整等の特徴
			右	長	角四石	雲母			外面(蒸地)	内面(釉)			
1	土御質土器鉢	A東	極小 a~d					暗青灰色 (5.B 3/1)	灰白色 (10YR 8/2)		不明		
2	須恵質土器	A東	極小 a~c					灰白色 (5.Y 7/1)	灰白色 (5.Y 7/1)		不明		
3	土師器	B中央	極小 a~b	極小 a			極小 a	灰黄色 (2.5Y 7/4)	灰白色 (5Y 7/4)		不明	片面に回転ユビナデ。	
4	磁器	B中央						(透明) 明マリーフ灰色 (2.5Y 7/1)	(透明) 内面?茶色 (内面?茶色) かった(透明)		不明	内面には回転ユビナデ、外面に施釉、貫入あり。 内面にも施釉?	
5	瓦	B中央		極小 a~b			極小 a~b	灰色 (7.5Y 4/1)	不明		不明		
6	陶器	B中央					極小 a~b	なしい棕色 (5.YR 6/4)	不明		不明	外面に回転ユビナデ、底面にユビナデが見られる。高台貼り付け。ロタリ切り難し方法は不明。	
7	須恵土器	B中央	極小 a~c					灰白色 (5.Y 7/1)	緑・灰色を呈する(透明)		不明	外面には回転ユビナデ、内・外面に施釉、貫入はない。外面には白色を呈する釉が粉状になって残り、また鉄分が付着する。	
8	陶器	B中央						(明脱) 灰色 (5.YR 7/2)	(黄・茶色)		不明		
9	磁器	B中央						(灰白色) (N 8/0)	(透明)		不明	残付、内・外面に青色の只須で施文。内面に施釉、貫入はない。	
10	陶器	B西		極小 a			極小 a	灰白色 (5.Y 6/1)	暗赤褐色がかった(透明)		不明	内面施釉。外面釉欠きとり。	
11	磁器	B西						灰白色 (5.Y 6/1)	(白色)		不明	内・外面に施釉、貫入あり。	
12	陶器	B西						なしい赤褐色 (2.5YR 4/3)	褐色 (10YR 4/1)		不明		
13	磁器	B西						(白色)	(透明)		不明	口縁部片。染付。内面に2条の沈線。内・外面に施釉、貫入はない。	

遺構・遺物

No	器形	出土位置	出土層位	胎			上			色		残存程度	形態・成形・調整等の特徴
				石	長	角四石	雲母	砂	礫	その他	外面(素地)		
14	須恵質土器	B東	3							不明	灰色 (7.5Y 6/1)	不明	
15	瓦	B東	3					極小 a-b		灰色 (N 4/0)	灰色 (N 4/0)	不明	
16	瓦	B東	3							灰色 (N 4/0)	灰色 (N 4/0)	不明	
17	瓦 須恵土器か?	B東	3					極小 a		灰白色(7.5Y 7/1) 片面不明		不明	
18	磁器	B東	3							(灰白色) (7.5Y 8/1)	(透明)	不明	内・外面に施釉、貫入はない。
19	磁器	B東	3							(白色)	(透明)	不明	口縁部片。染付。内面に密文を抹きで上・下に 各々2条の隠線を見る。外面は2条の隠線と稀 文を見る。内・外面に施釉、貫入も見る。
20	土師器	B中央	3	極小 a-c				極小 a		にぶい褐色 (7.5YR 7/4)	にぶい褐色 (7.5YR 7/4)	不明	内面?にユビナデ。
21	瓦	B中央	3							黒灰色		不明	
22	須恵器 器	B中央	3	極小 a				極小 a		暗灰色 (N 3/0)	褐色 (7.5YR 4/3)	不明	口縁部片。内・外面とも回転ナデ。6c中頃?
23	土師器	B西	3	極小 a-d	極小 a-b			極小 a		にぶい黄褐色 (10YR 7/4)	にぶい黄褐色 (10YR 7/4)	不明	
24	土師器	B西	3	極小 a-d	極小 a-b					褐色 (7.5YR 7/6)	褐色 (7.5YR 7/6)	不明	内・外面にナデ?
25	陶器	B西	3					極小 a-c		(にぶい褐色) (7.5YR 6/4)	内面-(黒色) 外面-(灰白色)	不明	外面はナデ?。内面と外面の部に施釉する。
26	磁器	B西	3							(灰白色) (10Y 8/1)	(透明)	不明	染付。内面に2条の隠線と文様を施す。内・外 面に施釉、貫入はない。
27	瓦	B西	3	極小 a-b				極小 a		灰色 (5Y 5/1)	灰色 (5Y 5/1)	不明	
28	瓦	B西	3	極小 a-d				極小 a		灰色 (7.5Y 5/1)	黒色	不明	
29	土師質土器	B東	4	極小 a-d				極小 a		灰色 (7.5Y 5/1)	にぶい褐色 (7.5YR 5/4)	不明	
30	瓦質土器 鉢	B東	4	極小 a-b						灰色 (N 6/0)	灰色 (N 6/0)	不明	口縁部片。内面には1裏によるナデ。本線は見られないが、 施釉は口縁部のみを裏台を総台して、古い段階のものと考え られる。口唇部はユビナデ。
31	磁器	B東	5					極小 a		(灰黄色) (2.5Y 6/2)	外面-(黒褐色) (5YR 2/1)	不明	口縁部片。内・外面に施釉、貫入はない。
32	磁器	B東	5							灰色 (5Y 5/1)	外面(黒褐色を 第1層) 内面(黒褐色を 第2層) を上に施す)	不明	口縁部片。内・外面に施釉、貫入はない。
33	磁器	B東	5					極小 a		(灰白色) (10Y 8/1)	(透明)	不明	口縁部片。内・外面に施釉、貫入はない。
34	磁器	B東	5					極小 a		(灰白色) (10Y 7/1)	(若干青緑 がかった透明)	不明	口縁部片。染付。内・外面に施釉、貫入あり。

No	器形	出土位置	出土層位	胎土				その他	色		調	残存程度	形態・成形・調整等の特徴
				石	瓦	角閃石	雲母		砂	礫			
35	磁器	B中央	5						(灰白色) (7.5Y 8/2)	(透明)	不明	口縁部片。内・外面に施釉、貫入あり。口縁先端は丸みを帯びる。	
36	磁器	B西	5						(灰白色) (7.5Y 7/1)	(若干灰色) がかった透明)	不明	口縁部片。内・外面に施釉、貫入あり。口縁先端は丸みを帯びる。	
37	瓦	B東	4						灰白色(5.Y 8/1) 黒色(7.5Y 2/1)		不明		
38	土師質土器	B東	7	極小 a-b	極小 a	極小 a			灰色 (7.5Y 4/1)	浅黄褐色 (10YR 8/3)	不明		
39	土師器	B東	7	極小 a-d					にぶい黄褐色(10YR 7/4) 浅黄褐色(10YR 8/4)		不明		
40	土師器	B東	7						浅黄褐色 (7.5YR 8/4)	浅黄褐色 (7.5YR 8/4)	不明		
41	須恵質土器?	B東	7	極小 a-d					不明	灰色 (5Y 5/1)	不明	内面ナデ。	
42	瓦質土器	B中央	7	極小 a-d					灰色 (10Y 4/1)	にぶい黄褐色 (10YR 5/4)	不明		
43	磁器	B東	7						(灰色) (5Y 5/1)	茶がかった透明)	不明	内・外面に施釉。貫入はない。	
44	土師質土器	B東	7	極小 a-d	極小 a-c	極小 a			棕色 (10Y 5/6)	棕色 (10Y 5/6)	不明	片面にナデ。	
45	陶器	B東	7				極小 a		(赤色) (10R 5/6)	(茶がかった透明)	不明		

- ※ 空白欄は該当事項のないもの。但し、法量については、石器類では計測不可能なものの意味。
- ※ 石器類について、その石材が靴紋文?とあるものについては、現時点、その石材から石器として認定し難いものも見られる。
- ※ 土器の胎土については、含まれる粒の大きさや、農林省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』(1976)に拠って、便宜的に分類した。
- 極小=径1mm以下
- 小=径1~2mmで、各々4段階、細かい方から順にa、b...とした。
- ※ 石器群の出土位置については、No.8削器を例にとると、基準線より北へ24.0cm、基準点から西へ205.0cmの位置にあることを示す。



小串構内(医学部・医療技術短期大学部キャンパス)全景(南西から)



(1) Aトレンチ全景(西から)



(2) Bトレンチ全景(東から)

小串構内医学部附属病院棟新営に伴う試掘調査(2)



(1) Aトレンチ中央全景(西から)



(2) Aトレンチ溝(東から)



(3) Aトレンチ北壁土層断面(南から)



(4) Bトレンチ東壁土層断面(西から)



(1) Bトレンチ遺物出土状況全景(南から)

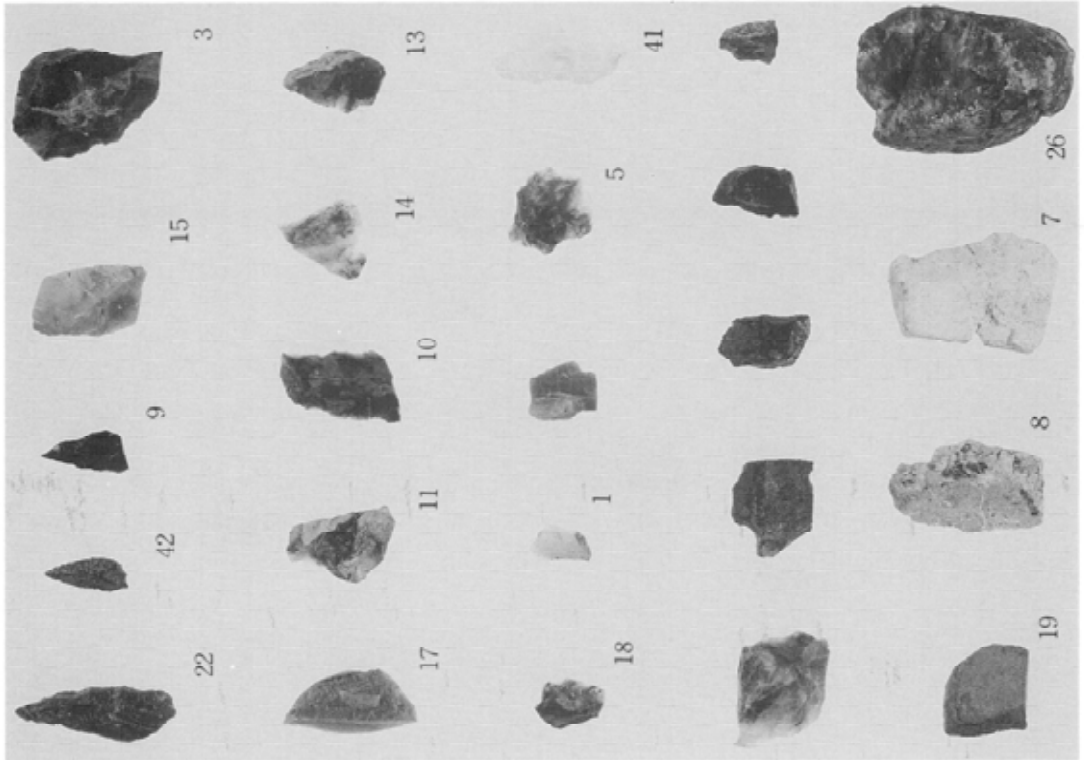


(2) Bトレンチ遺物出土状況(南から)

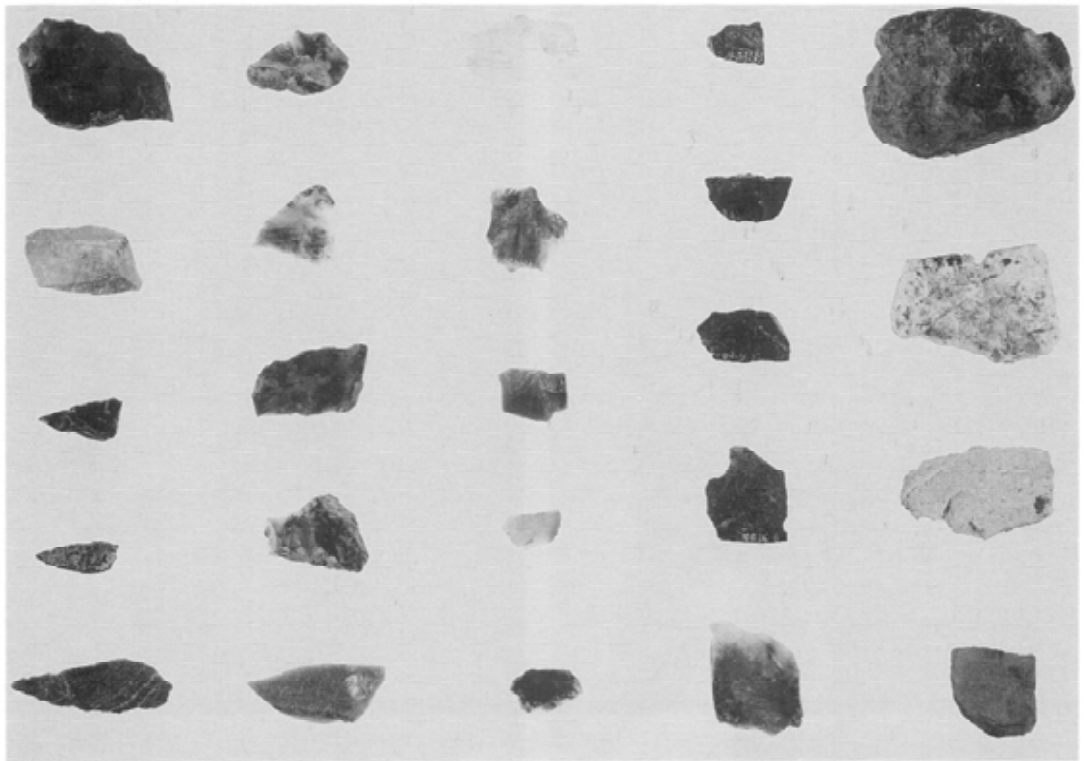


(3) Bトレンチ遺物出土状況(東から)

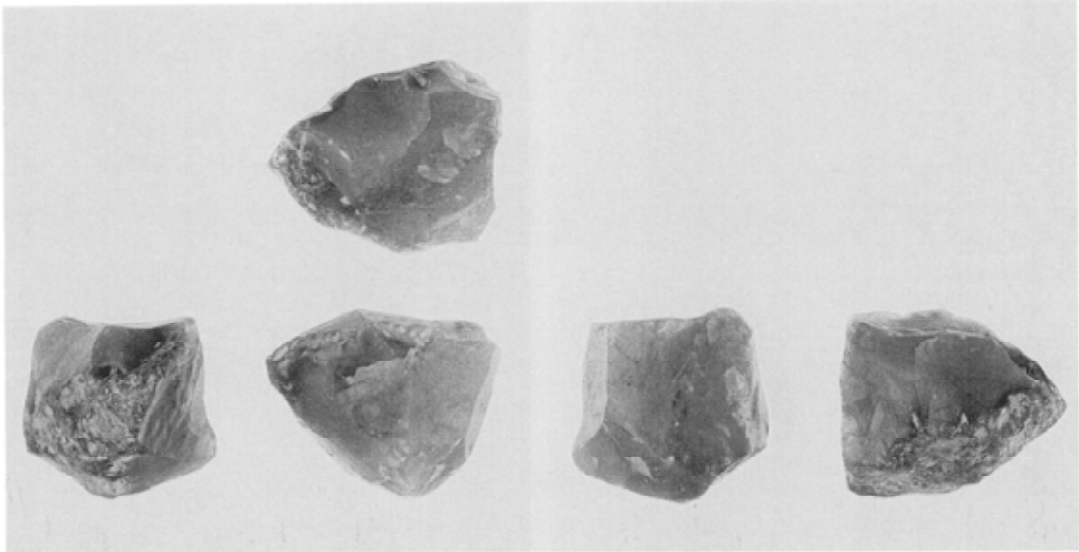
小串構内医学部附属病院棟新営に伴う試掘調査(4)



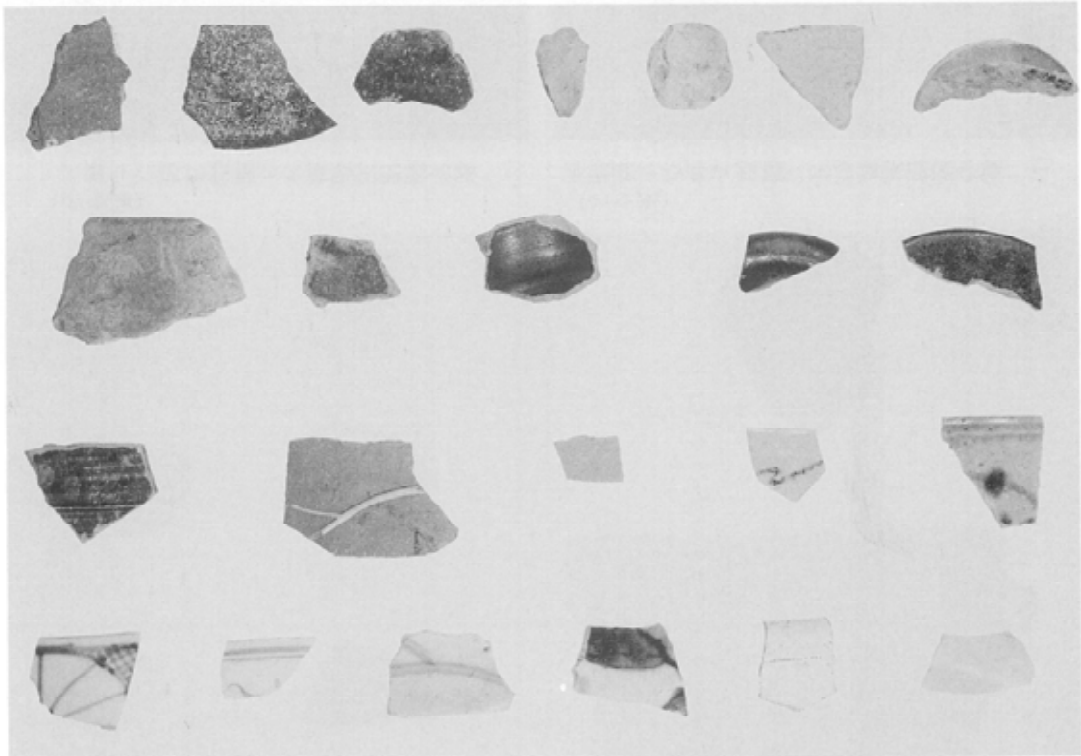
(1) 出土遺物(石器・表) Fig. 50 · 50



(2) 出土遺物(石器・裏)



(1) 出土遺物(石器)



(2) 出土遺物(土器)



(3) 出土遺物(サメの歯)